



形原町
鈴木 庸輔

今回は、まちの達人にインタビューし、答えていただきました。

「鈴木さんをこの『まちの達人』にと、市民の方から推薦をいただきました。どんな活動をされているのでしょうか。」

10年ほど前から自分の家の周りの草取りやごみ拾いなどを行っています。主に朝晩の自由時間に、多い時は2時間ぐらいかけで行っています。

「始めたきっかけは何ですか。」

厄年(42歳)をむかえた時、今まで健康に過ごさせていたいただいた感謝の気持ち、少しでも住んでいるまちに恩返しができると思う始めました。始めると、元来の性分から、止められ

なくなってしまう、今ではごみを見ると拾わずにはいられます。そして、初めは自分の家の周囲で見たごみを処理するだけでしたが、やっているうちに、段々と範囲が広がってしまいました。

「ごみ拾いといっても、いろいろありますが。」

草刈り、空き缶、タバコの吸殻などが多いですね。そのため、『今日は何をするか』目的を持って清掃活動をします。

「ひとりでは、大変ですね。」

今のところは、ひとりだと考えています。しかし、最近は体力も落ち、数袋のごみを清掃するには限界を感じます。

「地区の皆さんに呼びかけをしてはいかがですか。」

だれもが強制されると継続できません。私のごみ拾いを見て、一緒に拾う方もいますが、やはり、自分から進んでやる事が一番です。ごみを拾うという行為が、市民の方たちに「療原の火の如く」広まって欲しいと願います。そして、私もその一員として、体力が続く限り頑張りたい。自分の住んでいるまちをきれいにしましょう!

(聞き手: 広報担当)



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

最近小学校へ環境学習に行ったり、サメやエイを連れて児童館へ行ったりなどイベント活動が忙しく、水族館で仕事をするのが少なくないでした。

私には、そんな館外活動の時に役立つ必須アイテムがあります。それが今回紹介する「水族館帽子」です。

この帽子をかぶることで、この「水族館のコバヤシ」という知名度と人気は一気に上がり、それによって帽子をかぶった私のモチベーションも格段に上がります。まさに相乗効果です。ただし、この帽子をかぶる時は「恥をかく勇氣」が必要です。

この水族館帽子は、テレビ

活躍するマル秘アイテム

でおなじみの「さかなくん」に習い、100円ショップで材料を買って、仕事が終わってから自宅でテレビを見ながらコツコツと地道に作っています。しかし、裁縫をするのなんて小学校の家庭科の授業以来なので、結構たいへんな作業です。材料費は300円程度、制作期間はどれも1週間ほどです。

こういったちよつとした「もの作り」は学芸員である私の得意分野の一つ。現在、カニ、ウーパールーパー、チンアナゴの3種類の帽子を完成させて、イベントの時などに使っています。時には、小さなお子さんをお持ちの母さんから「売ってないの?」とか「欲しいです!」と言われることもあるくらい人気です。縫製屋さんと提携して売れないかな?なんて密かに考えてしまいません。



人気の水族館帽子